

47 伝右衛門と白イノシシ

伝承地：横山町

話者：20



(横山の風景)

宇都宮北部の丘陵地帯は、むかしイノシシや野ウサギたちの住みかであったという。

猪倉（今市市）は、イノシシの特に多く出没することから付けられた地名であり、篠井は、シシが水を飲みに現われる地であることから名付けられたとも伝えられている。

したがって、猪倉や篠井と山続きの横山や横倉など宇都宮北部にはたくさんのイノシシがいたといわれている。

ここで紹介するのは、横山の白いイノシシの話である。

江戸時代のなかごろの話です。横山村の山際の小さな家に伝右衛門という獵師が住んでいました。獵師といっても、主に冬しか狩りができないため近くの家の農作業を手伝う日が多い生活で、一人暮らしであっても伝右衛門はたいへん貧乏でした。

そんな伝右衛門にも、一つの楽しみがありました。それは、自分が毎朝毎晩おがみ信仰している浅間様の本社がある富士山に参拝することでした。しかし、貧しい暮らしの伝右衛門にとってそれはしょせん夢でしかありませんでした。

それでも、自分が病気もせず元気でいられるのは浅間様のおかげであると信じる伝右衛門は、浅間様を祭る家の裏の小さなほこらに朝晩のお参りを欠かしませんでした。

ある年の冬の事です。伝右衛門は、近くのツツジ山へ狩りに出かけました。しかし、その日はウサギ1匹さえも捕れず、あきらめて家路につこうと山を下りはじめました。すると突然、前の岩かげから大きな白い動物がおどり出て、伝右衛門目がけて突進してきました。伝右衛門は、反射的に身がまえ満身の力をこめて矢を射たところ、狙い違わずその動物の急所に命中しました。伝右衛門は、しとめた獲物を見て驚いた。それは、なんと富士山の雪のように全身を白い毛でおおわれた大イノシシだったのです。

伝右衛門は、この世に二匹とない白イノシシを射止めた話しは人々の間に広まり、いつしか宇都宮の殿様の耳にも入りました。そこで、伝右衛門はおしげもなく殿様に白イノシシを献上しました。殿様は、この珍獣に驚きかつ喜び伝右衛門にほうびを下さいました。

伝右衛門は、白イノシシを授けてくれたのは富士の浅間様のおかげだと思い、さっそくお礼参りに旅だったとのことでした。

